

第12章 管理の必要性

ほとんどの会社は数多くの管理職を置いています。

管理職は従業員に対して作業の指示や監督をしたり、怠^{なま}けていないか作業態度を監視したり、職場における不正や過^{あやま}ちがないように

管理とは

- 作業の指示・監督
- 勤務態度の監視
- 不正防止
- 過ちの防止

**従業員の教育
管理の必要のない職場づくり**

指導したりする役職であって、会社の生産性には直接関与しません。

従って、社員の教育が完全に行われていて管理する必要がなければ無用の役職です。別な言い方をすれば、管理する必要のない人ほど、会社に対する貢^{こうげん}献度が高いとも言えます。

大きな材木会社の社長が A 事務員に言いました。

管理とは

- 二人の事務員



「昨夜、材木を積んだ貨車が入ったと思うので見てきてほしい。」

A はヤードに行って「確かに到着しています。」と答えました。

社長は「何台到着したか。」と聞きました。A は再びヤードに行つて「10両到着しています。」と答えました。

社長は「材木の種類は何か。」と尋ねると、A はしばらくして戻つてきて「^{かし}櫨の木が3両と杉の木が7両。」と答えました。

その2・3日後、社長は同じ質問を B 事務員にしました。

B事務員はヤードにいて戻ってきて、「^{かし}檜の木をんだ車両が4両と杉の木を積んだ車両が5両入っています。」と答えました。

A事務員は自分が何をすべきかを理解せず、ただ見に行っただけでした。従ってすべての行動を管理しなければならなかったのです。

会社にとってはどちらの事務員が必要でしょうか。

3名の秘書がいます。Aは下書きをすべて書いて渡さなければタイピングすることができません。Bは喋ればそれをほぼ正確に^{しゃべ}タイピングします。Cは要点を説明するだけで、完全な文章に仕上げますので、サインをするだけで済みます。

管理とは

- 三人の秘書



あなただったら、どの秘書を雇いますか。管理する必要のない社員を養成することが会社を隆盛りゅうせいに導くのです。

ビジネスマンの目的は発展的な事業を構築することであり、その目的を達成するためには、奉仕の理念に基づいて、継続的に利益をもたらす顧客を確保することが必要です。